

# 「まちづくり戦略ビジョン」策定にあたっての提言

平成24年4月26日

札幌商工会議所

## 1. 都市の方向性の明確化

今回の「まちづくり戦略ビジョン」は20年後を見据えた今後10年間の計画ということであるが、都市としての方向性・将来像を明確に打ち出すべきである。

但し、これまでの延長線上の20年後を考えるのではなく、少子化・高齢化と人口減、グローバル化の進展、エネルギー環境の急変、クラウドコンピューティングの進展、北海道新幹線の札幌延伸の現実化、といった動きを踏まえた、新たな20年後を想起することが必要である。

札幌は、これまで札幌オリンピックを契機に発展を遂げたが、その後の40年間で街は殆ど変わっていないといってよい。産業面においても、3次産業に特化した消費経済の街で、ものづくり産業が弱いという構造は変わっていない。加えて、近年では、本州企業の支店も閉鎖されるなど空洞化も見られるようになった。このまま手をこまねいては、閉塞感が増し、魅力のない・活気のない街となっていくことが危惧される。

加えて、現状では、マニフェストに基づく4年間の実施計画のみが前面に押し出され、長期総合計画の位置づけが曖昧になってきた感がある。このため本市の将来像がはっきりせず、個々の事業が対処療法的なものとなってきた面が否めない。

しかも、「札幌市総合交通計画」「札幌市産業振興ビジョン」「札幌型ものづくり振興戦略」といった部門別計画が既にここ数年で策定されてきているが、本来、「まちづくり戦略ビジョン」が先行して策定された上で、その理念に沿った計画がつけられるべきものと思われる。

今般の「まちづくり戦略ビジョン」がこうした点を解消するとともに、北海道とも適切な連携と役割分担が果たされ、本市の将来に亘るビジョンとして機能することを期待する。

## 2. 経済成長戦略をビジョンの中核に

「まちづくり戦略ビジョン」において、今後示すべき『都市像』は、市民向けのものというだけでなく、世界中から人材や観光客、企業や投資を呼び込むことを考え、世界に発信するものであるべきである。また、『まちづくりの基本目標』や『重点戦略』として打ち出すべきものは「経済成長戦略」であると考えます。

雇用の維持・創出、所得増、消費拡大、税収増など一連の好循環をつくり、豊かな市民生活を築くためには、経済成長が特に重要であると考えます。

したがって、都市空間や交通体系などの都市構造においても経済・産業と関連付けて戦略的に考えていくことが必要である。こうした分野は、完成までに時間がかかるため、とりわけ将来ビジョンと戦略性が重要である。

財政制約の中、必然的に「選択と集中」が求められるが、予算執行においても“投資と税収増”の観点から経済成長を支えるインフラや産業振興分野に重点化するなどメリハリをつけるべきであり、併せて、民間委託を進めるとともに、規制緩和などにより民間が投資しやすい環境を整えていくべきと思われる。

また、成長戦略の策定にあたっては、「車の両輪」と言われてきた商工会議所の意見も取り入れて頂きたい。

例えば、観光の面では、電線地中化や大通公園の連続化、都心部での観光バス駐車場整備など、まだまだやらなければならないことが沢山ある。

一方、欠けている2次産業の誘致に向けては、丘珠空港の有効活用や高速道路による新千歳空港へのアクセス強化、さらに石狩湾新港とのアクセス強化なども必要である。東日本大震災により一極集中のリスクが顕在化した今が機能分散を訴える好機であり、企業誘致へとつなげるとともに新たな産業の確立も急がれる。

スマートシティなどの戦略的なプロジェクト、国際機関の誘致など国外に視野を広げた発想も不可欠である。

冬期間における産業経済活動をおこなうにあたり、円滑な交通の確保や交通安全対策の上からも、雪対策は欠かすことのできない施策であるが、融雪槽・流雪溝の設置に加え、熱を有効利用するインフラ整備を促進するなど、中長期的視野に立った抜本的な雪対策の見直しも必要である。

加えて、新幹線の札幌延伸が現実的となる中、今後の都心の街づくりをどう進めていくかという際には、民間投資を呼び込む施策として、思い切った容積率や高さ制限緩和などの規制緩和により民間が投資しやすい環境を整えていくべきと思われる。

### 3. オリジナリティの必要性

札幌という都市名が入っていなければ、どこの都市にでも当てはまるようなビジョンでは策定の意味がなく、札幌ならではの独自性が求められる。かと言って余りにも現状からかけ離れるのも問題である。

地域の魅力は中にいると意外と気付かないものであり、例えば、積雪寒冷というハンディは、外から見れば「見えざる資産」との評価を得ている。地域資源を今一度見直し、強み・弱みを適切に評価した上で、ビジョンが構築されるべきである。

新たな都市のビジョンを市民や企業はもちろん、国内外に示す意味からも、「札幌冬季オリンピック」や「札幌万博」などの戦略プロジェクトを設定すべきである。

財政制約から現実路線ばかり考えるのではなく、都市間競争に打ち勝つ、夢のある野心的なビジョンやプロジェクトを提起すべきではないかと考える。